

多人数必修授業におけるオンライングループ活動の実践

岩 田 京 子 中 島 千 優 島 弘 美

Practicing On-Line Group Activities in Large Required Classes

Kyoko Iwata

Chihiro Nakashima

Hiromi Shima

(2021年12月1日受理)

1. はじめに

日本私立大学連盟は「ポストコロナ時代の大学のあり方～デジタルを活用した新しい学びの実現～」(令和3年7月発表)⁽¹⁾で、学修者本意の学びの深化とパンデミックや災害時でも学びを止めない、学びの危機管理の必要性を提言している。具体例として、デジタル技術を活用した、オンライン留学、都市と地方の大学間連携、リカレント教育の推進などをあげる。コロナ禍が大学教育の新しい扉を開けている。

令和2年度(2020年度)、福岡県への第1回目の緊急事態宣言発出で否応なしにキャリア開発学科(以下、本学科)でWeb授業が始まった。まさに手探りの連続でデジタルに向き合った年であった。令和3年度(2021年度)、授業のデジタル化は2年目となり、5月12日から31日まで福岡県への第3回目の緊急事態宣言発出で、再度、本学科は全面的にWeb授業となった。

本報告は、緊急事態宣言で対面授業が制限される状況下、本学科における多人数の必修授業で、ZoomやTeamsを用い、学生がグループワークやディスカッションを行う実践と、そこから見える課題をまとめ、今後に活かしていくことを目的としている。なお、本報告対象となる必修科目は「大学基礎演習」(1年前学期、受講生21H:150名、木曜1限)と「キャリア形成演習Ⅱ」(2年前学期、受講生20H:140名、木曜3限)で、各1クラスである。

2. Webを使用した必修科目

(1) 大学基礎演習(1年生)

「大学基礎演習」は、本学科の教育課程のなかでは、初年次教育に位置づけられている。高校から大学への移行をスムーズに行うために、大学1年生として必要な基礎的な知識や技術の修得を目指す授業である。そのため、

授業内容は資格等を含む学科の教育内容の理解、大学生としてのレポートの書き方やマナー、自校教育や防犯など多方面にわたる。

そのなかでも、特に授業回数3回に分けて行う学生によるプレゼンテーションは重要である。ひとつのテーマに沿って、仲間で情報収集や意見交換を行い、PowerPointのスライド作成し、発表するという一連のプレゼンテーションを実体験するアクティブラーニングとして、毎年、シラバスのなかに入れている。大学基礎演習で学んだこと(インプット)を、学生同士でより深く理解、また発展させ、発表すること(アウトプット)を、学生が仲間と協力しながら行うことで、学生間のコミュニケーションを促進することも目的のひとつである。

① 実 践

大学基礎演習のシラバスでは、第9回「クラス別・全体プレゼンテーションについて」(6月3日)第12回「クラス別プレゼンテーション」(6月24日)、第14回「クラス代表者による全体プレゼンテーション」(7月8日)の3回の授業に分けて、全員が4名～5名で1グループを形成し、グループごとに発表をすることを課している。3回目の緊急事態宣言は5月31日までであったが、宣言解除から間もないということから、第9回(6月3日)はWebでの実施とした。なお、第12回と第14回は緊急事態宣言が解かれて対面授業となったため、本報告の対象となるのは、第9回の授業である(図表1)。

第9回「クラス別・全体プレゼンテーションについて」では、まず教員がプレゼンテーションの目的やテーマ、実施方法について説明した。第12回は各クラス(8クラス)に分かれてグループごとに発表し、クラス代表グループが選ばれる。選ばれたクラス代表グループ(8グループ)が、第14回目の授業で全員の前で発表を行うというものである。

令和3年度のプレゼンテーションのテーマは「コロナ

図表 1：「大学基礎演習」（クラス別・全体プレゼンテーションに関する回の授業内容と方法）

従来（コロナ禍前）			令和3年度（2021年度）		
回	授業内容	方法	回	授業内容	方法
第9回	「クラス別・全体プレゼンテーションについて」	対面	第9回	「クラス別・全体プレゼンテーションについて」	Zoom Teams
	・教員説明			・教員説明	
	・グループ話し合い			・グループ話し合い	
	授業後の各グループの話し合い、準備	対面		授業後の各グループの話し合い、準備	Teams
第10回	プレゼンテーション以外の別テーマの授業	対面	第10回	プレゼンテーション以外の別テーマの授業	Web
第11回		対面	第11回		Web
第12回	「クラス別プレゼンテーション」	対面	第12回	「クラス別プレゼンテーション」	対面
第14回	「クラス代表者による全体プレゼンテーション」	対面	第14回	「クラス代表者による全体プレゼンテーション」	対面

本稿で報告するのは、網掛けの部分である。

禍での学び」であった。Web 授業、制限されたサークル活動や学外活動、コロナ感染や将来への不安、不安定な社会など、特殊な環境での学修を、学生はどのようにとらえ、乗り越えようとしているのか、学生に考えて欲しいという目的と、コロナ禍での学生を理解したいという意図もあった。

学生には発表を通して、以下の4つを身に付けて欲しいと話している。

1. 個人ではなく、チームでプレゼンテーションをする。
2. 友達と話しあったり、協力し合うことで、自分の考えが深まったり、新しい考えやアイデアに出会え、刺激を受けることができる。
3. プレゼンテーションの資料を作成するなかで、パソコンの技能が向上したり、わかってもらえる資料ができるかを考えることができる。
4. 自分の成長だけではなく、友達の成長にも貢献することができる。

学生は第9回授業で担当教員より概要の説明を受けたあと、第12回「クラス別プレゼンテーション」で発表するまでに、各グループ、授業時間外でテーマについて話し合い、役割分担やパワーポイント作成などを行わなければならない。例年、学生は全て大学内で、対面で準備をするところだが、これもできないため、グループワークをオンラインでできるように活動環境を整えることにした。

② 授業前の準備

授業前に学生へは掲示を出し、授業についての注意を周知した。掲示内容としては以下のような内容である。

- N-note を充電しておくこと
- Zoom、Teams のアプリケーションをダウンロードしておくこと
- Zoom ではカメラとマイクはオフにしておくこと
- 当日の Zoom のリンク
- スーツを着用し、Nakamura Style⁽²⁾ の正しい身

だしなみで受講すること

- 接続に問題があった場合は、Zoom のチャット機能や、UNIPA の Q & A で連絡をすること
- Zoom に入室後、名前を学籍番号＋氏名に変更すること

また当日の授業の予告として、

- グループワークの注意点
- Teams でグループワークを行うこと
- グループワーク中はカメラとマイクはオンにすること
- グループ編成（自分のグループを確認）
- Zoom では待合室を設定し、学生には授業開始の10分前までには入室しておくこと

を伝えた。

当日の授業では、まず担当教員が Zoom で「クラス別・全体プレゼンテーション」についての説明を行った。テーマは上述したように「コロナ禍での学び」とし、3～4名で1グループを作り、1クラスで5チームを編成した。第12回クラス別プレゼンテーションに向けて、PowerPoint を掲示しながら発表すること、図書館での検索や信頼できるインターネットサイトから情報を得ることなどを指示した。

緊急事態宣言下で大学入構が制限されるなかで、学生たちが対面せずに授業外での発表準備を進めるためのデジタル学習環境が必要である。そのため Teams の活用を教えることにした。Teams としたのは、すでに他の授業で Teams でのライブ授業を学生が体験して馴染みがあったこと、チャット機能や通話などで、オンラインでグループメンバー間のコミュニケーションが可能であることが理由である。また、学生は発表のために PowerPoint でスライドを作成することが求められており、Teams で共同作成や編集ができる利便性も体験しておけば、後に他の授業や諸活動にも活用可能であると判断したからでもある。

授業当日は、担当教員は Zoom の共有機能を使用し、発表準備のために Teams の使い方について説明を行った。事前に Teams 上に各クラスのチームを作成し、各

グループのチャネルを作成しておいた。そのうえで、会議の始め方や画面の共有方法などグループワークに必要な機能を説明した。説明後、実際に各グループに分かれて、発表までの役割分担、計画、テーマに関する話し合いを行った。

学生がグループ別に話し合いを行っている最中に、助手3名で手分けをし、服装チェックと操作に困っていないかなどの確認を行った。出席は、Zoomの参加（担当教員の説明）とTeamsの参加（グループ活動）の両方を条件とした。Zoomでは参加者の学籍番号と名前を確認をおこない、名前の変更ができていない学生については個別のチャット機能を使い対応をした。

以上が第9回授業の事前準備と当日の授業内容であるが、学生は授業外で発表の準備をしなければならないため、Teamsの操作などで困ったときのことを考え、発表までの間、週1回（計4回）Teams活用法のワークショップを開催した。図表2はTeamsのグループの利用状況を示したものである。ワークショップを開催したが、学生からの質問はなかった。第9回授業後に対面授業が再開され、学生たちは大学で実際に会うことができたこともあり、Teamsを利用するグループは少なかったことが理由のひとつだが、Teamsではなく使い慣れているLINEなどの通話を使用して作成したという学生たちの声が聞かれた。画面共有などの機能を使わずに分担して作成したグループが多かったようである。

図表2：グループ別発表準備のためのTeams利用回数
(令和3年6月4日～6月24日)

	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス	5クラス	6クラス	7クラス	8クラス
A	0	2	0	1	0	0	4	2
B	0	0	1	0	0	0	4	0
C	0	2	0	5	0	3	0	0
D	0	2	0	4	1	0	0	1
E	0	2	0	0	0	0	0	0

以上の第9回授業と学生の授業外の準備を経て、第12回でクラスでの発表をし、クラス代表グループが選出された。第14回は各クラスの代表チームがプレゼンテーションを行った。チーム発表毎に、クラス代表者が質問を行う。それ以外の学生からの質問も受け付けたが質問はでなかった。発表については、代表者1名が行っても、複数のものが交代で行ってもよいとしたが多くのチームが全員で発表を行っていた。1チームの発表後、他4チームから1名が必ず何らかの質問を行い、発表チームは回答をする形を取った。全チーム発表後、クラス代表のチームと質問者を選出した。

第14回の全体プレゼンテーションの採点は教員と学生

が行った。教員は、1～3位を選び、それぞれ、3点、2点、1点で加算され、学生はUNIPAのクリッカーを使用し、1位のみを投票した。学生の評価をUNIPAで行ったのは初めてである。上位3グループが表彰されて、第9回、第12回、そして第14回の一連の学生のプレゼンテーションが終了した。

(2) キャリア形成演習Ⅱ（2年生）

「キャリア形成演習Ⅱ」は本学科の「基盤分野」に配置されている科目で、学生が自己の適正や将来の職業について考え、自らキャリアを形成できるようになるために必要とされる知識や技能を習得し、それらを応用しながら、将来のキャリアへ向かって能動的に行動していく力をつけることをテーマとしている。

2年生の前学期は、本学科の多くの学生にとっての「キャリア形成」は就職活動と同義語に近い。本科目でも5分間テストとして一般常識問題と時事問題のテストを毎回UNIPAのテスト機能を用いて行っている。

「キャリア形成演習Ⅱ」の授業は「次の就職活動に活かせるように」というタイムリーで実践的な内容で構成されている。例えば「新聞の読み方」などがあたる。新聞記事から社会の動向、企業情報、志望動機へのつなげ方、面接時での活用などができるように、2回にわたって授業をしている。

同じように、2回にわたって授業をしているのが「就職活動や職場で役立つディスカッション」とするグループディスカッションの実践である。グループディスカッションは学生のコミュニケーション能力を測るために、多くの企業の就職試験で導入されている。また、こうした能力は就職後も同僚とのコミュニケーションで活かされることになるため重要である。しかし、学生のなかには戸惑う者も多く、事前の体験は苦手意識の払拭に役立つ。

コロナ禍前は、就職活動はほぼ対面で行われてきたが、コロナ禍ではオンラインが一般的になりつつある。オンライン就職活動に関する知識や実践をしておくことは、就職活動の成否要因のひとつとなるだろう。

「キャリア形成演習Ⅱ」のグループディスカッションは、第5回（5月13日、2限）、第6回（同日、3限）で行った。通常は3限の授業だが、この日は2限と3限と1日で2回分の授業を行った。その意図は、まず2限目にZoomのブレイクアウトルーム機能を使用し、グループワークを行った。3限目に、外部講師から先ほどのグループワークの講評と、ディスカッションのコツを聞くことで、学生が自分たちのディスカッションの良かった点や改善点を明確にすることをねらいにした措置である（図表3）。

図表3：「キャリア形成演習Ⅱ」（グループディスカッションに関する回の授業内容と方法）

従来（コロナ禍前）			令和3年度（2021年度）		
回	授業内容	方法	回	授業内容	方法
第5回	「就職活動や職場で役立つディスカッション」	対面	第5回 2限	「就職活動や職場で役立つディスカッション」	Zoom
	・教員説明			・教員説明	
	・グループディスカッション			・グループディスカッション	
第6回	・グループディスカッション	対面	第6回 3限	・教員講評	Zoom
	・教員講評			・グループディスカッションの解説、コツ	

① 授業前の準備

Zoomでオンライン授業をするにあたって、事前に以下の点を学生に連絡していた。

- 対面授業と同様、Nakamura Style にそったスーツを着用して受講すること
- 大学のメールアドレスで事前にグループ分けをしているため、大学のメールアドレスを使用したZoomアカウントを作成しておくこと
- 接続に問題があった場合は、Zoomのチャット機能かUNIPAのQ&Aで連絡すること
- 入室後、名前の表示を学籍番号＋氏名に変更しておくこと（名前の表示の仕方も記載）

その他、当日の授業のリンクや入室時間などを連絡した。

② 実践

第5回授業（2限）が開始されるとすぐにUNIPAのスマホ出席機能を使って各自スマートフォンで出席を登録させた。当日の出席者数を正確に把握することで、欠席者の多いグループがないか確認できた。

まず、担当教員がZoomで授業の目的、実践内容、外部講師の紹介を行った。グループディスカッションは2回行うことにした（各25分程度）。グループディスカッションのテーマは、「コロナウイルスワクチンを打つべきか、打つべきでないか」（Yes/No問題）、「コロナ禍により変わったこと、これから変わること」（自由議論問題）を伝えた。学生は早速ブレイクアウトルームに移動してディスカッションを開始した。

ディスカッション中は、外部講師（1名）・担当教員（3名）・助手（2名）の計6名で担当分担をし、各ブレイクアウトルームを回った。その際に再度出席を確認したり、議論が進んでいないグループにアドバイスを行ったりした。その後、全員に結論を300～400字でまとめUNIPAで提出するよう指示を出した。

第6回授業も第5回授業と同様、最初にスマホで出席登録した後、UNIPAで5分間テストを受験するよう指示を出した。次に、事前に撮影していた対面でのグループディスカッションの映像を流しながら、担当教員が解説を行った。その後、外部講師がアイスブレイクとして

何題か簡単なテーマを出した後、講評を行った。最後に、PowerPointを画面共有しながらディスカッションについてのまとめを行った。

3. 課題と今後

(1) 課題

以上述べた2つの授業科目におけるオンライングループ活動の実践から、それぞれ以下の課題が見えてきた。

① 大学基礎演習

- 事前の指示や、授業中の指示が学生に行き届きづらい。
- 接続トラブルで授業開始時間に遅れてしまう学生や、授業途中に長い時間トークルームから出ていた学生の欠の判断が難しい。
- 何かトラブルがあった際に、すぐに自分から連絡できる学生はいいが、そうではない学生はこちらが気付くまで放置状態になってしまう。
- グループワーク中などは特に全体に目がいき届かない。
- 授業に参加しているかどうか分かりづらい。

② キャリア形成演習Ⅱ

- UNIPAのスマホ出席機能を使っているが、接続の問題なのか一部きちんと出席登録できていない学生がいるため正確とは言えず、別の方法での出席確認が必要であった。
- 教員側の出席確認の都合で、氏名の表示変更の指示を事前にしていたが、約1割の学生が変更せず入室してきた。
- ネット環境が不安定等の理由で授業の途中でトークルームから退室した学生が数名いた。また、その中には特に連絡もなく再入室してこない学生もいた。
- 事前にブレイクアウトルームのグループ分けをしていたため、大学のメールアドレスでアカウントを作って入室するよう指示をしていたが、いざブレイクアウトルームを開始するとほとんどの学生が個人のアドレスでログインしていたため、グループ分け

がうまくいかなかった。

- ブレイクアウトルームを回っている際、誰も発言をせず全く議論が進んでいないチームがあり、教員が入室して発言を促す必要があった。
- 140人履修者がおり、ブレイクアウトルームが1グループ10人の計14グループあったため、グループをひとつひとつ見回るのが大変だった。
- 授業中にこちらが呼びかけても反応がない学生がおり、入室した後PC前にいない可能性もあった。

(2) 今 後

令和3年度(2021年度)はじめて、本学科の2つの必修授業(大学基礎演習とキャリア形成演習Ⅱ)におけるグループプレゼンテーション、グループディスカッションを、デジタル(ZoomとTeams)を用いて行った。従来、対面で行っていたものだが、コロナ禍のため対面授業が制限されたこと、就職活動でオンラインが主流になってきたことから、オンラインで行う体験を学生に伝えることができた。

上述したように、学生側の課題としては、ZoomやTeamsに慣れていないことがある。また、オンラインでのマナーの周知や事前準備も徹底することが必要である。1年生は入学して間もないため、致し方ないこともあるので、初年次教育あるいは入学前教育としてデジタルツールの利便性や「デジタルマナー」を学生へ教える必要もあるだろう。

知識だけではなく、ZoomやTeamsを用いてのグループ活動の機会を、必修授業だけではなく他の科目でも意図的にシラバスに入れていくことも考えたい。今後デジタル化が加速することは間違いなく、デジタルツールの活用は必須のビジネススキルになるため、在学中に体験し慣れておくことは社会人への良い準備となる。

本稿はデジタルを使い、グループ活動やディスカッションをどのように実践したかについての報告であるが、一番大きな課題は、学生が果たしてどれほど熱心にグループワークに参加していたかを教員側で判断できなかったことである。学生がZoomやTeamsに参加していることを確認することはできる。しかし、学生の参加状況や度合いを教員側で確認するのが難しい。100名以上のクラスでは対面授業だとしても難しいところだが、少なくとも対面であれば教員が全体を一度に見回すことができ、グループ活動の活発度は視覚的にとらえることができる。しかし、オンラインでは俯瞰的に見ることは難しく、細かく見ようと思うと、今回のキャリア形成演習Ⅱのように複数の教員・助手などのマンパワーが必要となる。学生のオンラインでのグループ活動をどこまで、どのような方法で教員がチェックするかは今後の検討と

試行が必要である。

4. 最後に

コロナ禍でさまざまな社会生活が制限されることが多くなった。一方で「制限」から革新が芽生えている例が社会でも散見される。本報告の2科目の必修授業でのグループ活動もそのような事例の小さなひとつといえるかもしれない。学生の対面での密を避け、安全に授業を受けるためにオンラインでのグループ活動は、新たな教育手段と教育内容への気づきとなっている。

コロナ禍は学生や社会の実情に合わせて教育に柔軟性と可能性を考えていく契機になった。「災い転じて福となす」が実現するか否かは、今後の私たちにかかっている。

本報告は、令和3年度プロジェクト研究「採点のデジタル化に関する研究」(研究代表者 岸川公紀)の研究成果の一部である。

注

- (1) 「ポストコロナ時代の大学のあり方〜デジタルを活用した新しい学びの実現〜」(令和3年7月)一般社団法人日本私立大学連盟
<https://www.shidairen.or.jp/files/user/20200803postcorona.pdf> (令和3年8月10日検索)
- (2) Nakamura Styleは、中村学園大学短期大学部学生として守るべき学生生活上のルールやマナーを定めたものである。キャリア開発学科は、Nakamura Styleの実践を目的として、毎週木曜日を「ビジネスディ」と定め、学生はスーツで登校している。